

令和 7 年 度 事 業 報 告

社 会 福 祉 法 人

飯 塚 市 社 会 福 祉 協 議 会

1. 事業の総括

新型コロナウイルスが、5類に位置づけされてから地域では多くの行事が開催されるようになり、以前の日常生活を取り戻しつつあるなか、コロナ禍による影響で複雑化、複合化した課題を抱えた世帯は増え、地域における多様な課題は今もなお増加しているため、本会では飯塚市の基本理念である「誰もが安心して暮らせるまちいづか」のもと、自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員、ボランティアなどの福祉関係者や行政と協働して、地域福祉関連事業及び介護保険等関連事業を次の通り推進してまいりました。

- (1) 地域福祉関連事業では、地域の特性に応じた支え合いの仕組みづくりを進め、自治会長会や民生委員・児童委員協議会をはじめ各福祉関係機関と連携を深めながら、社会資源の把握やふれあい・いきいきサロン活動の支援、高齢者の見守りなど、地域に根ざした取り組みを展開しました。また、住民が主体となって生活支援に関わる体制を整えるため、担い手の養成や新たな組織づくりに向けた準備も進めました。

令和7年度は福祉委員の改選の年であり、地域の見守り活動を継続・強化することを重点に新任委員の活動定着と関係機関との連携強化に努めました。

併せて、複合的な課題を抱える方への支援体制を強化するため、相談会の開催やひきこもり状態にある方への支援を通じて、地域全体で支える仕組みの充実を図りました。

判断能力の低下により日常生活に不安を抱える方への支援については、相談援助や権利擁護の取り組みを着実に進め、安心して暮らせる環境づくりに寄与しました。

ボランティア活動の分野では、地域や施設からのニーズに応じて傾聴ボランティアの養成を行い、活動意欲のある住民を新たに登録することで、地域の支え手の拡充につなげました。

さらに、社会福祉法人として地域公益活動連携協議会の事務局を担い、法人の強みを生かした地域貢献を推進し、地域福祉の向上に向けた基盤づくりを進めました。

- (2) 介護保険等関連事業では、介護人材確保における初めての取り組みとして福岡県の【介護福祉士を目指す留学生マッチング事業】を活用し、特別養護老人ホーム筑穂桜の園にミャンマー人留学生2名を受け入れました。現在は学校で学業に励みながら、パート職員として勤務しています。学業と就労の両立を支援しつつ、本会の職員として地域福祉にも貢献できる人材を目指し、育成に取り組みました。

また、人材確保・職場環境改善事業補助金などを活用して、全額を介護職員等へ還元し、処遇向上と人材定着を図りました。

さらに利用者及び職員の人権擁護のため、虐待防止委員会・身体拘束等適正化委員会を開催するとともに、災害等不測の事態に備えBCP（業務継続計画）を適宜改訂し、全職員を対象とした研修会を実施するなど働きやすい職場環境作りに職員一丸となって取り組みました。

- (3) 法人運営関連事業の令和7年度においては、組合との事務折衝を重ね、人事院勧告に基づく給与表のプラス改定をはじめとする職員の労働意欲増進につながる環境整備に努めました。

併せて、理事会及び評議員会では、議案の審議等を行うことで法人運営の透明性を計るとともに、法律の改正等に対応するための情報収集や諸規程の変更にも努めました。

また、法人全体のスキルアップにもつながるよう全職員の各種研修会への参加にも努め、本会としても正職員に「改正育児・介護休業法のポイント」及び「仕事と育児・介護の両立へ」の研修を、社労士を講師とし開催しました。

その他、飯塚オートレース場メインスタンド改修工事終了に伴う、自動販売機の移設及び新規設置場所の調整や、社協だよりへの広告収入などの自主財源の確保にも努めました。

2. 地域福祉関連事業

(1) 小地域福祉活動

① 地区（校区）社協・地域福祉ネットワーク委員会活動との協働

小地域福祉活動推進の基盤となる実践として、市内18ヶ所の地区（校区）社協、20ヶ所の地域福祉ネットワーク委員会の活動を日常的に支援しました。活動資金である共同募金からの事業助成の削減により、改めて事業の見直しを行うなど、地域の各組織団体の協力を得ながら、次の活動に取り組みました。地区（校区）社協を中心に、ふれあい・いきいきサロン、福祉委員研修会、ひとり暮らし高齢者会食会、ふれあい電話、長寿弁当、グラウンドゴルフ大会、男性料理教室、三世代ウォーキングなどが取り組まれています。

② 福祉委員活動（地区別福祉委員研修会）

高齢者の見守りなど各種地域福祉活動を目的に市内全域に配置している福祉委員（508人）の活動強化を図り、地域の要援護者見守りネットワークの活動を支援するため、福祉委員、民生委員・児童委員、自治会長、地域福祉ネットワーク委員会委員、地区（校区）社協役員などを参加対象として、市内13ヶ所の地区で、年間1～2回福祉委員研修会を実施しました。

③ 「ふれあい・いきいきサロン」活動

「ふれあい・いきいきサロン」（市内179か所）について、その代表者や世話人を対象に、サロン活動の充実・発展に資する情報の提供や交流に関する「ふれあい・いきいきサロンお世話人研修会」を8月29日、穂波交流センターで開催しました。

各地における「ふれあい・いきいきサロン」を安定的に継続するため、地域の高齢者が気軽に集い、交流を深める場としての機能を維持・充実させることを目指し、各地区（校区）社協を通じて、サロンへの助成金の交付も行いました。

(2) 生活支援体制整備事業の推進

生活支援コーディネーターと協議体

地区担当の生活支援コーディネーターが、地区（校区）社協、地域福祉ネットワーク委員会、自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員、シニアクラブ、包括支援センターなどに呼びかけ概ね生活圏域を範囲とした第2層協議体を組織し、福祉座談会やアンケート調査などを通して地域の福祉課題を抽出するとともに、地区の社会資源調査・担い手の育成・元気高齢者の社会参加など、多様な主体からサービスが提供できるような仕組みづくりを協議しました。包括支援センターが主催する地域ケア会議には生活支援コーディネーターとして参加をし、地域資源について情報提供を行いました。地域ケア会議で挙げた地域課題について協議体活動にて検討を実施しました。市全域を共有する第1層協議体においては、「生活支援体制推進会議」と称し、各地区の第2層協議体代表者と生活支援員コーディネーター、今年度より地域包括支援センターにも参加いただき、年2回開催することができました。第1層協議体では「移動支援」と「生活支援」をテーマに課題抽出と「こういたい地域像」についてグループワークを実施しました。本事業について、「飯塚市地域包括ケアシステム会議」で活動報告を行いました。

生活支援サポーター養成講座では、「二瀬地区お助け隊」を組織し、令和8年4月から始動できるよう活動支援・助言を実施しました。また、令和6年度に本講座を修了したサポーターの交流会も開催し、サロン活動支援の取り組みとしてレクリエーション道具の作成を行いました。

サポーターの皆さんには、市内サロン等でレクリエーションをお手伝いいただきました。今後とも交流会を継続し、地域での活躍の場の提供などを行っていきます。

介護予防教室（出前講座）の講師派遣について、サロン活動を再開する自治会が多く、予定派遣数を大幅に超える申請があり、介護予防に対する意識をより高めることができました。

(3) 重層的支援体制整備事業

令和7年度からは「いづか福祉まるとサポート事業」として飯塚市全域で本格実施に移しました。相談支援機関等から寄せられる、複雑化・複合化した課題を抱える世帯に対応するため、重層的支援会議などを開催し、関係機関間での情報共有や役割分担の明確化を図りました。今後も包括的な相談支援体制を構築するため、各支援関係機関と顔の見える関係性をつくり、横のつながりを広げていくことで、さらなる連携を深めてまいります。

併せて、政策的な取り組みでは「地域づくり事業」において社会資源マップを作成しました。制度の狭間の世代や、ひきこもり支援にも力を入れ、居場所づくり拠点「きまま」を設置するなど、「参加支援事業」や「アウトリーチ事業」も積極的に展開しました。これらの仕組みが着実に整備されていくことで、地域住民が安心して暮らせる環境の実現につながるよう、今後もさらなる発展を目指してまいります。

(4) 権利擁護センター事業

権利擁護センターでは、認知症や知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が不十分な人を福祉的側面から支援する「日常生活自立支援事業」と、法的な側面から本人の権利を守り生活を支援する「法人後見事業」を行いました。

利用者の推移など

ア 新規利用者数

〔権利擁護事業〕 20人（令和7年度・利用者数：101人）／解約者10人

〔法人後見事業〕 0人（令和7年度・利用者数：3人）／終了者1人／類型：後見2人・保佐1人・補助0人

イ 新規相談者数 112人

ウ 年間延べ相談援助件数 2,403件

エ 新規生活支援員育成者数 0人（令和7年度・生活支援員数：6人）

オ 運営審議会の開催

6回（4/21、6/11、8/27、10/21、12/23、2/17）

カ 本所・支所の利用者数 (単位：人)

	本所	穂波支所	筑穂支所	庄内支所	颯田支所	計
ほっとサービス	14	3	0	1	1	19
日常生活自立支援	52	16	4	3	4	79
法人後見	1	1	0	0	1	3
計	67	20	4	4	6	101

(5) ボランティアセンター事業

① ボランティアに関する相談・紹介などコーディネート業務

個人・団体より相談を受け、114件のコーディネートを行いました。

② ボランティアの養成

ア 手話奉仕員養成講座（入門課程）

4月10日から9月11日（通算22回 毎週木曜日）、飯塚市の委託を受け、飯塚市聴覚障害者協会・飯塚市手話の会の協力により22人の受講者を得て開催しました。

修了者：19人

イ 手話奉仕員養成講座（基礎課程）

9月24日から2月26日（通算20回 毎週木曜日）、飯塚市の委託を受け、飯塚市聴覚障害者協会・飯塚市手話の会の協力により24人の受講者を得て開催しました。

修了者：22人

ウ 音声訳ボランティア養成講座

視覚障がい者の方々に各種印刷物や図書などをテープ・CDとして作成した情報を提供する「音声訳（朗読）ボランティア講座」を下記のボランティア団体の協力を得て開催しました。

- ・音訳いっづか 講座 6月に開催 受講者5人 修了者3人
- ・声のボランティアサークル 穂声 講座 10月に開催 受講者3人 修了者3人

エ 点訳ボランティア養成講座

視覚障がい者の方々に暮らしに関わる情報提供を行う「点訳ボランティア養成講座」を下記のボランティア団体の協力を得て開催しました。

- ・点訳ボランティア キャンドル 講座 2月に開催 受講者2人 修了者2人
- ・点訳 さくら 講座 3月に開催 受講者6人 修了者5人

オ ボランティア養成講座

- ・傾聴入門講座 入門編 令和8年1/15「つながりサポーター養成講座」：参加者11人
第1回 令和8年1/22 傾聴基礎講座：参加者10人
第2回 令和8年1/29 傾聴基礎講座：参加者9人 修了者9人
- 養成講座終了後、講座受講者とは新宮町傾聴ボランティア団体「そら」への視察研修実施

③ ボランティア活動保険

保険に関する相談、受付、加入手続き、事故処理、調整を行いました。

ボランティア活動保険（行事用保険：144件 活動保険：106件 サロンの保険：29件
送迎サービス：1件 福祉サービス：3件 事故処理：4件）

④ 移送支援事業

利用者と運転ボランティアのコーディネートを行いました。

利用登録者15人に対し、運転ボランティア4人、ボランティアセンター職員2人により年間延べ132件の移送支援を行いました。

⑤ ボランティア活動の推進

ボランティア団体の育成および連絡協議会の会議に参加し、支援を行いました。飯塚市ボランティアセンターとして、各地区のボランティア連絡協議会や所属団体の活動を支援する役割を担いながら、連携強化に取り組みました。

（6）県社協委託事業「生活福祉資金貸付事業（本則・相談支援事業）」の展開業務

令和7年度の生活福祉資金貸付事業は、本則部分である通常業務に加え、コロナ禍における特例貸付の償還開始に伴う相談支援業務を引き続き受託し、償還手続きに問題を抱える方や経済的に償還が困難な方に対して、相談管理システムを用いて支援の優先度が高い世帯を選定し、またSNSアカウントを活用し、時間と場所を問わない柔軟な相談窓口を運用しました。

（7）ふくおかライフレスキュー事業の取り組み

生計困難者が公的な制度やサービスなどを受けられるようになるまでの間、必要に応じてライフラインの復旧や一時的な食事の提供、ならびに関係機関との連携会議などを通して支援を行いました。令和7年度の本会の支援件数は3件でした。

(8) 認知症サポーター養成講座

飯塚市の受託事業として「認知症サポーター養成講座」を継続して取り組みました。令和7年度は、延べ27回の講座を開催し、649人のサポーターを養成しました。(延べ14,337人)

受講後、サポーターとして活動できるか意向調査を行い、延べ31人の方が、登録されました。

受講団体名	開催日	参加者 (人)	受講団体名	開催日	参加者 (人)
脳元気教室①菰田	6/23	13	脳元気教室⑧庄内	10/9	25
脳元気教室②筑穂	6/24	16	脳元気教室⑨穂波	10/16	17
脳元気教室③潁田	6/26	12	脳元気教室⑩幸袋	10/17	13
脳元気教室④鯉田	6/27	21	栗尾公民館	10/19	4
脳元気教室⑤飯塚片島	6/30	21	脳元気教室⑪飯塚東	10/28	16
脳元気教室⑥鎮西	7/4	14	脳元気教室⑫二瀬	11/12	26
市民講座①	7/5	13	椋本自治会	12/11	10
脳元気教室⑦立岩	7/16	19	近畿短期大学	12/12	24
楽市サロン	7/16	16	飯塚小学校	1/19	37
穂波地区ボランティア連絡協議会	8/20	21	穂波西中学校1年生	1/30	98
筑穂民生委員・福祉委員	9/9	34	市民講座②	2/14	17
幸袋民生委員・福祉委員	9/18	42	真意飯塚自治会	2/20	20
片島小学校	9/19	64	柳町自治会	3/10	9
飯塚市薬剤師会	10/8	27			

フォローアップ研修

過去に認知症サポーター養成講座を受講した方を対象にフォローアップ研修を行いました。オレンジカフェを運営している事業所の方に活動内容を紹介していただき、認知症サポーターとしてどのように関わるかについてグループワークを行いました。

対象者	開催日	参加者(人)	講 師
認知症サポーター フォローアップ研修	11/8	13	①グリーンコープ グループホーム ^{のどか} 管理者：作本 成美 ②まちの保健室あいおす 管理者：神宮 淳子

(9) 社会福祉法人の地域公益活動の取り組み（飯塚市社会福祉法人地域公益活動連携協議会）

飯塚市内にある児童・障がい者・高齢者・地域福祉の4分野の社会福祉法人が集まって結成された飯塚市社福連は、「地域における公益的な取組み」を行うことを目的に本会が事務局を務め、現在では25法人が加入しています。

令和7年度も、飯塚地区にある「フードバンク」2ヶ所の賛助会員となり、ライフレスキュー事業等の生活困窮者の支援をおこないました。また、地域貢献事業として、小中学校の福祉体験学習では、専門職の方に講師として協力していただきました。さらに飯塚市ボランティア連絡協議会の事業で地域防災活動の取り組みとして「防災^{いい}飯ばいてぬぐい」の作成の協力を行いました。

(10) 障がい者福祉活動の推進

① 障がい児者バスハイク

障がい児者間の交流やボランティアとの交流を図るためのバスハイクを11月2日（日）に開催しました。参加者は、26人で、小石原絵付け体験へ行きました。

② 飯塚国際車いすテニス大会の支援

本大会は、アジアで唯一、国際テニス連盟（ITF）公認の車いすテニスツアー「WT1000」として、開催されています。

本会としては、大会運営支援の一環として寄付金募集の支援を行うとともに、出場選手の移動支援のため送迎用リフト車を提供しました。

(11) 子育て、児童・青少年福祉活動の推進

子育て分野の事業として当事者同士の交流を目的とした「子育てサロン・おやつとこっと」を年12回開催しました。延べ51組109人の参加がありました。

(12) その他の地域福祉活動

- ① 社協だよりの発行、年3回（6月、10月、2月）
- ② 10月13日（祝）「みんなの健幸・福祉のつどい2025」
- ③ 福祉関係団体への運営費助成および事業支援
- ④ 心配ごと相談所運営（相談件数19件）
- ⑤ 福祉用具貸し出し（車いす196件・松葉杖30件）延べ226件
- ⑥ 共同募金運動への協力
- ⑦ シルバー陶芸教室年間延べ利用者数 268人（R7年12月で事業廃止）

(13) 支所（エリアごと）地域福祉推進事業報告

◎飯塚エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

- ① 赤い羽根共同募金の配分金事業として、地域交流や社会参加の促進、仲間づくりや見守りを目的に、地区社協が実施する「会食会」および「配食サービス」を、一人暮らし高齢者や高齢者世帯を対象に支援しました。
- ② 在宅介護者の会「つくしの会」活動の支援
在宅で寝たきりの方や認知症高齢者を介護する家族のための会（定例会・研修会・リフレッシュ行事など）に参加し、助言や支援を行う取り組みを年間10回実施しました。

2) 児童・青少年福祉活動の推進

福祉体験や総合学習の支援

児童・生徒を対象に、障がい者や高齢者への理解促進を目的として、手話・点字・車いす操作・認知症理解・障がい者との交流などの福祉教育を、市内の小中学校と連携して実施しました。

3) 地区（校区）社協との連携と地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン活動の支援と推進

ボランティア、民生委員・児童委員、福祉委員、自治会長を中心に1～2か月に1回程度開催されるサロンに向けて、さまざまな特技や資格を持つ「特技ボランティア」を募集・登録し、活動先への紹介を行いました。また、レクリエーション用具の貸出しや企業による出前講座の情報提供・利用支援も実施しました。

② 地区「ふれあい電話」活動の推進

地区社協によっては、地域において見守りが必要な一人暮らし高齢者、高齢者夫婦の方々を対象に、「ふれあい電話」の活動を推進しました。

③ 地域ふれあい活動事業の実施

地区社協を基盤とした、親子球技大会、グラウンドゴルフ大会、ウォークラリー大会、どんど焼き祭りなどの取り組みを支援しました。

④ 福祉委員の設置推進

福祉委員を配置し、見守りが必要な一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯、障がい児者などの見守り活動を支援しました。

⑤ 福祉委員研修会の開催

福祉委員研修会については、市社協主催の研修会を行いました。また、地区社協が主催する研修会には協力という形で関わりました。

⑥ 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会との連携強化

9地区社協で開催されるネットワーク委員会に参加し、連絡調整ならびに事業推進の支援を行いました。

⑦ 民生委員・児童委員協議会との連携

9地区で毎月行われる民生委員・児童委員協議会に参加し、地域の支援が必要な方々についてのケース検討に関わりました。

4) その他の活動の推進

① 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、権利擁護センターの専門員や生活支援員と連携しながら、推進員として判断力に不安のある利用者の生活をサポートしました。

② 共同募金運動への協力

自治会長、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金の協力を行いました。

③ 心配ごと相談の実施

民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、奇数月に1回の心配ごと相談所を年間6回開設しました。

5) 各地区まちづくり協議会への参画

地域づくりを進めるために設立された「まちづくり協議会」に協力団体として参加し、会議に出席しました。組織の運営や事業内容、地域の課題とその解決方法についての話し合いに加わりました。

◎穂波エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

① 在宅介護者の会「かたらい」の活動支援

毎月第3水曜日を定例会とし、会員のリフレッシュを目的として開催しています。情報交換をはじめ、他の介護者の会との交流会など活動の支援を行いました。

- ② 一人暮らし緊急入院「安心箱」の推進
利用件数 2 件

2) 障がい者福祉活動の推進

① テレホンサービス事業

声のボランティアサークル「穂声（すいせい）」に毎週月曜日、内容を更新してテープに吹き込んでもらい、フリーダイヤルで視覚障がい者への情報提供を行いました。

② 市報などのテープ吹き込み配布事業（音訳）

声のボランティアサークル「穂声（すいせい）」が社協だよりの吹き込みを行いました。併せて、交流センターだよりや支所だより（年 4 回発行）、その他の情報をテープに吹き込み・ダビング・発送の一連の作業も行い、視覚障がい者の生活支援を行ないました。

3) 児童・青少年福祉活動の推進

① 社会福祉推進校事業の推進

穂波支所管内の各小・中学校と連携して車いす体験、アイマスク体験、手話や点字の講習、高齢者疑似体験、環境福祉などについて児童に対する理解を深める授業に年間 11 回参加しました。

② 春休み福祉体験校の開催

穂波地区の各小学校へ参加募集を行い、8 名の参加者で障がい者サービス事業所「竜王の里」を訪問し、利用者の方と一緒に生産活動の体験をしました。また、車いすで生活している方の講話、車いす体験、高齢者・障がい者福祉について学習しました。

③ 子育て広場の開催

子育て支援として同じ世代のお子さんを持つ親同士の友達作りの場と子どもとのスキンシップの取り方などを学ぶという二つの目的をもって開催しています。4 か月を 1 クール制（但し、5 月～7 月のみ 3 ヶ月で 1 クール）とし、連続して同じメンバーで集まることで交流を深めています。令和 7 年度は年 1 1 回開催し、延べ 94 組 189 人の親子が参加されました。

4) 地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン並びに介護予防教室活動への支援と推進

会場である自治会公民館などへ「ふれあい・いきいきサロン」「介護予防」への取り組みに（年 45 回開催）参加し、講話や DVD 上映会、レクリエーション遊具の貸し出し、特技ボランティアやその他の講師派遣や調整を行いました。

② 校区社協活動の支援

穂波地区 6 校区社協の役員会・運営委員会へ出席し、事業企画・事務・実施の支援、活動費の助成を行いました。

③ 福祉委員活動推進と強化

毎月第 3 火曜日に定例会を計 9 回開催しました。福祉委員が地域福祉の担い手として活動できるよう、「防災対応」「赤い羽根共同募金」「障がい」などをテーマに研修会を中心とした内容で実施しました。

④ 自治会長会との連携

年間 3 回出席し、社協穂波支所の福祉事業の紹介、赤い羽根共同募金や賛助費、各事業への協力依頼を行いました。

⑤ 民生委員・児童委員協議会との連携

定例会へ参加し、社協穂波支所の福祉事業の紹介、各事業実施のための調査や調整、配布物の依頼などを行いました。

⑥ 校区社協連絡会の開催

穂波地区内の6校区の社協会長・副会長・事務局長に参加していただき、令和8年度からの飯塚市社協の重点事項の一つである「終活サポート事業」について研修会を開催しました。

5) ボランティア活動の推進

ボランティアなど連絡協議会との連携

第3水曜日の定例会資料の作成、ボランティア団体への連絡調整ならびに年3回発行しているボランティア情報誌の編集などの支援を行いました。

ボラ連主催行事の「We Love 穂波川」は、穂波ボランティア連絡協議会の会員26名で実施しました。

6) その他の活動の推進

① 穂波地区福祉賛助費

穂波地区の福祉活動を促進するため、賛助費募金について全戸にチラシを配布し、協力依頼をしました。令和7年度の穂波地区福祉賛助費は795,667円のご協力をいただきました。

② 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、権利擁護センターの専門員や生活支援員と連携しながら、推進員として判断力に不安のある利用者の生活をサポートしました。

③ 共同募金運動への協力

自治会長、民生委員・児童委員、校区社協、行政と協力し、街頭募金・法人募金・戸別募金などの募金活動に参加しました。

④ 心配ごと相談の実施

民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、奇数月に1回の心配ごと相談所を年間6回開設しました。

⑤ 支所だよりの発行

穂波支所の福祉活動を紹介する記事を、年間4回（5月15日・8月15日・10月15日・1月15日）発行しました。

7) 穂波まちづくり協議会への参画

穂波地区地域コミュニティの構築と活性化に向けた取り組みとして、穂波まちづくり協議会に協力団体として、まち協主催の事業に参加しました。

◎筑穂エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

① ひまわり友の会（一人暮らし高齢者会食会）の開催

令和7年度も昨年同様、感染予防のため、「会食会」を中止し、筑穂地区民生委員・児童委員のみなさんにご協力いただき、75歳以上の一人暮らし（250人）の方に記念品の配布を行いました。

② 在宅介護者の会『桜の会』の開催

在宅で寝たきりや認知症などの家族を介護している方の交流の場として、「オレンジカフェ」と合わせた会合を年14回開催しました。また、飯塚市社協主催の在宅介護者リフレッシュ事業に参加される方もおられました。

③ 「あんしん携帯カード」と「ふれあい・ほっとライン」の普及

75歳以上の一人暮らしの方を対象とした、緊急連絡先やかかりつけの病院などを記載した「あんしん携帯カード」を、筑穂地区まちづくり協議会保健福祉部会との協働事業として提供していただいている「安心キット」に「ふれあい・ほっとライン」の用紙を入れ、冷蔵庫で保管して使うものです。令和7年度は、連絡先の変更が多く、書き換えのため更新と新規合わせて242人の方に、民生委員・児童委員の協力のもと配布しました。

④ 筑穂地区「健幸講座」の開催

75歳以上の高齢者に「健幸寿命」への理解と関心を促し、介護予防事業への参加につなげるため、生活支援コーディネーターが調整を担いながら活動を展開しました。年間12回の開催で、延べ227名が参加しました。

2) 障がい者福祉活動の推進

おもちゃ図書館の運営

当事者および家族などからの利用申し込みにより随時開館し、年間延べ利用者27人の利用がありました。

3) 地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン活動の支援と推進

会場である自治会公民館などのサロンに出向き、講話やDVD上映会、レクリエーションなどを実施し、特技ボランティアや介護予防の講師の派遣の調整を行いました。

② 介護予防講座「ふれあいマーじゃん」の開催

脳トレーニングの一環である「ふれあいマーじゃん」は年間延べ24回開催しました。

③ いきいきサロンボランティア「にこにこリズム体操」指導員研修会

いきいきサロンでの介護予防メニューの普及を支援する「にこにこリズム体操」指導員の方々（20名）に集まっていただき、毎月第3金曜日にスキルアップ研修を行いました。

④ 「ふれあいフェスタちくほ」の開催

筑穂地区の福祉関係団体が実行委員となり、広く一般の方に地域福祉を理解していただくため、筑穂地区まちづくり協議会の保健福祉部会の協働事業として地域の方々がふれあい、交流できる場をつくることを目的に11月19日（日）に開催しました。

⑤ 自治会長会との連携

令和7年度も、賛助会員加入の依頼、共同募金への協力依頼、地区社協・ネットワーク委員会の事業についての説明や協力依頼などを行いました。

⑥ 民生委員・児童委員協議会との連携

毎月開催される民生委員・児童委員協議会へ参加し、「ひまわり友の会」などの実施案内、福祉委員活動への協力依頼などを行いました。

- ⑦ 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会の支援
筑穂地区社会福祉協議会、大分・上穂波・内野校区地域福祉ネットワーク委員会の運営を支援しました。
- ⑧ 福祉委員連絡会の開催
活動の交流や意見交換、研修などについて連絡会を2回（5月14日、9月9日）に開催しました。

4) ボランティア活動の推進

- ① ボランティア連絡協議会との連携
ボランティア連絡協議会の会議を5月13日に開催し、各団体の前年度の活動報告や活動計画等の意見交換を行い、連携、協働を図りました。
- ② ふれあい電話の実施
毎週水曜日に、一人暮らし高齢者などに対して電話による安否確認を行う活動を支援しました。

5) その他の活動推進

- ① 福祉活動賛助会費
筑穂地区の福祉活動を促進するため、賛助会費募金について全戸にチラシを配布し、協力依頼しました。令和7年度筑穂地区福祉活動賛助会費は1, 125, 000円ご協力いただきました。
- ② 日常生活自立支援事業の推進
支所のコミュニティワーカーが、本所の権利擁護センター専門員や生活支援員と連携し、判断能力が不十分な利用者の生活を支えました。
- ③ 共同募金運動への協力
自治会長、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金などに協力しました。
- ④ 心配ごと相談の実施
民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、偶数月に1回の心配ごと相談所を年間6回開設しました。

6) 筑穂地区まちづくり協議会への参画

筑穂地区の地域づくりを進めるため、まちづくり協議会の会議に参加し、組織運営や事業の進め方、地域の課題とその解決方法について話し合いました。

◎庄内エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

- ① 一人暮らし高齢者交流会の開催
6月24日、庄内地区全体で年に1回開催し、64名の参加がありました。
- ② 三世代音楽交流会の開催
11月2日に飯塚吹奏楽団と庄内中学校吹奏楽部による演奏会を実施しました。総勢80名の参加者がありました。

2) 障がい者福祉活動の推進

庄内地区 障がい者バスハイクの実施

9月14日障がい者バスハイクを実施しました。道の駅歓誘舎ひこさん・めんべい添田工場に行き、見学会と昼食会を行いました。18名の参加がありました。

3) 児童・青少年福祉活動の推進

福祉体験事業

5月29日庄内小学校4年生を対象とした福祉体験（車椅子、ボッチャ）を実施しました。

4) 地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン活動推進のための支援

ア サロン実施自治会に対し、介護予防教室出前講座・サロン用具等の活用を勧め、サロン活動を支援しました。

イ サロン未実施自治会に対し、サロン開催について呼びかけをしました。

② 自治会長会との連携

ア 共同募金活動・サロン活動への協力依頼をしました。

イ 協議体の「健康福祉相談」の実施について周知しました。

③ 民生委員・児童委員協議会との連携

定期的に開催される、民生委員・児童委員協議会へ参加し、社会資源や事業の周知、協議体活動に関する協力を依頼しました。

⑦ 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会の支援

庄内地区社会福祉協議会、庄内地区地域福祉ネットワーク委員会の運営を支援しました。

⑤ 小地域福祉活動の推進

ア 福祉委員研修会を5月27日に行いました。

イ ふれあい・いきいきサロンの運営に対し、サロンの実施などの相談・支援を行いました。
(令和7年度、10自治会で実施)

⑥ 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会の支援

総会を5月13日実施、定例会を10月21日・2月12日の計3回開催しました。

5) ボランティア活動の推進

庄内ボランティア連絡協議会の定例会議に出席し、地区社会福祉協議会事業・まちづくり協議会主催事業へのボランティア依頼をしました。

6) 庄内地区第2層協議体活動の支援

① ちょっと頼みたい有料サービスの支援

ア 庄内地区協議体で作成した「ちょっと頼みたい有料サービス」の冊子に理美容サービスを追加し、民生委員や福祉委員に対し一人暮らし高齢者や地域で気になる方を対象として配布を依頼しました。

イ 庄内地区社協だより3月号へ情報を載せました。

○令和7年度の利用者実績 17件

② 健康福祉相談の実施

地域包括支援センター職員・地区社協の協力のもと、奇数月に1回健康福祉相談を実施しました。

○令和7年度利用実績 4件

7) その他の活動の推進

① 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティーワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

② 共同募金運動への協力

自治会長、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金活動などに協力しました。

③ 心配ごと相談の実施

民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、奇数月に1回の心配ごと相談所を年間6回開設しました。

④ 支所だよりの発行

年間2回（9月15日、3月15日）に発行しました。

⑤ レクリエーション遊具（用具）の貸し出し

庄内地区の介護予防や子どもたちとのコミュニケーションツールの1つとして貸し出しを行いました。

⑥ 男性料理教室

12月19日、飯塚市食生活改善推進会庄内支部の皆さんに協力をいただき、参加者9名で料理教室を行いました。

◎ 颯田エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

① 給食サービスの支援

颯田地区社協、民生委員・児童委員協議会の協力を得て、給食サービスを実施しました。
対象者：80歳以上の一人暮らしの方、毎月第3木曜日（年12回）、年間延べ461食

② 高齢者とボランティアのつどいの開催

かいた訪問ボランティアさつき会と共催で、地域のつどいを開催しました。
対象者：口原自治会70歳以上の方 場所：口原公民館 参加者数：21人

③ 高齢者記念品配布事業の実施

80歳以上の一人暮らし高齢者の方へ敬老祝いとして記念品を配布しました。

④ 健幸講座の開催

奇数月の第4木曜日（年間6回）、颯田高齢福祉センターで健幸講座を開催しました。体操やヨガ、転倒防止のための講話などの健康づくりの教室や、参加者同士の交流を目的としたボッチャやコミュニケーションマージャンなどのレクリエーションも取り入れながら、介護予防を目的として取り組みました。

⑤ 颯田地区「生活支援サポーターすみれ」定例会の開催

「健幸講座に参加した方」や颯田地区で活動されているいきいきサロンの世話人、ボランティア団体に所属されている方などに声かけし、偶数月に1回（年間6回）定例会を開催しました。颯田地区で取り組んでいる介護予防事業や、地区社協の様々なイベントのボランティアスタッフとして、活躍していただけるきっかけづくりをしています。

2) 障がい者福祉活動の推進

手をつなぐ親の会活動の支援

4月27日(日)総会、7月13日(日)第1回ボッチャ会、10月26日(日)第2回ボッチャ会、11月16日(日)糸島方面バスハイク、12月21日(日)クリスマス会、年間5回の例会に参加し、会員の皆さんと楽しく交流しました。

3) 児童・青少年福祉活動の推進

① 3世代交流事業の実施

颯田地区体育振興会の協力を得て、7月5日(土)に3世代交流スポーツ体験会を開催いたしました。(大人35名、子ども34名)計69名)

② 颯田子育てサポートジャムとの連携

毎月2回、高齢者福祉センターで開催されている「じゃむんち」の活動を支援し、親子でいつでも参加できる居場所づくりと、子どもに関する悩みを共有し、支援が必要な場合には、ジャムと社協がすぐに連携できるような体制づくりに取り組みました。

また、令和7年度より月に一度「おゆずり会」を開催し、おゆずり品の保管や預かり支援など、ジャムと連携して取り組みました。

8月9日(土)は、「かいたマルシェ」に共催団体として参加し、地区社協としてボッチャ体験会を実施しました。

4) 地域福祉活動の推進

① 自治会長会との連携

5月に自治会長会の総会に出席し、颯田地域だよりの配布協力、赤い羽根共同募金、地区社協・ネットワーク委員会の事業についての協力依頼を行いました。

② 民生委員・児童委員協議会との連携

毎月第2水曜日に開催される定例会に出席し、福祉活動について連携を図りました。

毎月第3木曜日の一人暮らし給食サービスの弁当配布、11月の80歳以上一人暮らしの方へ記念品配布事業などにご協力いただきました。

③ 地区社会福祉協議会、地域福祉ネットワーク委員会の支援

ア 地区社協と地域福祉ネットワーク委員会の総会と、合同会議を年11回開催しました。

3月には、久留米市の「じじっか」に視察研修に行き、居場所支援の取り組みについて学びました。

イ 颯田高齢者福祉センターの管理、運営を行いました。

(入館者：年間 4, 195人)

5) ボランティア活動の推進

訪問ボランティア団体「さつき会」活動の支援

毎月1回定例会に出席し、ケース検討など活動の支援を行いました。

6) その他の活動の推進

① 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー(福祉活動専門員)が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

- ② 共同募金運動への協力
自治会長、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金などに協力しました。
- ③ 心配ごと相談の実施
民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、偶数月に1回の心配ごと相談所を年間6回開設しました。
- ④ 地域だよりの発行
年間4回（5月15日、8月15日、11月15日、2月15日）発行しました。

3. 介護保険等関連事業

(1) 介護保険事業

- ① 居宅介護支援事業
 - ・ケアプラン作成管理 年間延べ件数 3, 456件
[飯塚支所] 1, 529件 [穂波支所] 1, 927件
- ② 介護予防居宅介護支援事業
 - ・予防プラン作成管理 年間延べ件数 342件
[飯塚支所] 54件 [穂波支所] 288件
飯塚支所は7月に職員1名を補充することができ、穂波支所と同様に5名体制での稼働となりましたが、資格取得直後であり実務経験を重ねスキルアップを図っています。
- ③ 訪問介護事業
 - ・年間延べ派遣回数 9, 981回
昨年と比べて487回減少しました。
- ④ 介護予防訪問介護事業
 - ・年間延べ派遣回数 5, 217回
昨年と比べて424回増加しました。
令和6年度の報酬改定マイナスにより、総合事業利用者を受け入れる事業所が減少している可能性が予想されます。社協としては受け入れざるを得ない状況の中、事業展開を図ってまいりました。
- ⑤ 通所介護事業 [筑穂]
 - ・年間延べ利用者数 5, 715人
昨年と比べて121人減りました。
- ⑥ 介護予防通所介護事業 [筑穂]
 - ・年間延べ利用者数 1, 602人
昨年と比べて32人減りました。
外出行事などイベントの増加や体験利用時の入浴提供などにより、利用者獲得を図りました。
- ⑦ 特別養護老人ホーム筑穂桜の園
 - ・入所定員 30人
年間を通じた平均入所者数は29人となりました。
 - ・ショートステイ年間延べ利用人数 866人
入所者の増加により空床利用が制限されましたが、297日間の稼働を達成することができました。

(2) 地域支援事業

① 穂波東地域包括支援センター

- ・総合相談年間延べ件数 789件
- ・包括的、継続的ケアマネジメント年間支援件数 72件
- ・指定介護予防サービス年間実績件数 851件（穂波東包括：579件 委託先居宅：272件）
- ・介護予防ケアマネジメント年間実績件数1,280件（穂波東包括：919件：委託先居宅：361件）
- ・福祉サービス代行申請年間延べ件数 30件
- ・運営推進会議年間延べ回数 12回

例年になく総合相談の件数が多く3職種（社会福祉士・看護師・主任ケアマネジャー）を中心に地域住民の相談に応じてまいりました。

予防介護プランの作成についても、委託件数の減少に伴いプランナーだけでは対応できず3職種職員のプラン作成件数も増加しました。

② 筑穂地域包括支援センター

- ・総合相談年間延べ件数 877件
- ・包括的、継続的ケアマネジメント年間支援件数 62件
- ・指定介護予防サービス年間実績件数1,030件（筑穂包括：600件 委託先居宅：430件）
- ・介護予防ケアマネジメント年間実績件数 1,576件（筑穂包括：948件 委託先居宅：628件）
- ・福祉サービス代行申請年間延べ件数 35件
- ・運営推進会議年間延べ回数 12回

7月より介護支援専門員を1名採用しましたが、実務経験がないことからサポート体制を構築し徐々に担当ケースの増加を図りました。また、1月からは体調不良により3職種の1名が病休となりましたが、全職員一丸となり対応しました。

③ 食の自立支援事業（配食サービス）[筑穂]

- ・年間延べ配食数 8,042食

昨年と比べて420食の増加となりましたが、その都度配達コースの変更を行うことにより経費節減に努めました。

④ 高齢者住宅等安心確保事業（シルバーハウジング生活支援員派遣事業）

- ・入居者数 24戸（令和8年3月末現在）

昨年に引き続き、飯塚市役所高齢者支援課と連携を図り、一日二回朝夕に巡回訪問を行うなど、入居者が安心して生活を送れるよう支援しました。

⑤ 飯塚市ヤングケアラー・支援対象児童等訪問支援事業

- ・依頼数 3件

対応に苦慮する家庭もありましたが、飯塚市役所こども家庭相談係と連携を図り、対象世帯の支援を行いました。

⑥ 障がい支援区分認定調査事業

- ・認定調査件数 200件

年間を通じ安定した委託件数を受託し、障がい福祉サービスの利用に貢献しました。

(3) 障害福祉サービス事業

① 居宅介護事業

- ・年間延べ派遣回数 6,054回

新規利用者の獲得より中止となる利用者の方が多く、298回減少となりました。

② 相談支援事業 [飯塚]

- ・計画作成、管理年間延べ件数 164件

管理職を含む2名が他業務と兼務しながら計画作成にあたりました。

③ 児童デイサービス [筑穂]

- ・年間延べ利用者数 1,446人

年度当初卒園児が多く、新規利用者も受け入れましたが535人の減少となりました。

④ 障がい者支援センター（生活介護） [筑穂]

- ・年間延べ利用者数 1,701人

安定して新規利用者を受け入れることができ昨年と比べて、微増となりました。

(4) 地域生活支援事業

移動支援事業 [飯塚]

- ・年間延べ派遣回数 13回

利用者数は3名ではありますが、安心して外出ができるサービス提供に努めました。

(5) 制度外サービス事業

- ・年間延べ派遣回数 129回 [飯塚]

介護保険制度、障害者総合支援制度、地域支援事業などの制度を補完するサービスとして本会が独自に実施している事業であり、制度では対応できない部分の生活援助や外出介助および通院介助、家族不在時の見守り支援などを行いました。

(6) 筑豊地区福祉人材バンク

福岡県社協から業務委託を受けている事業であり、福祉人材無料職業紹介所として、福祉の仕事希望する人と、人材を必要とする社会福祉施設・事業所等の福祉職場をつなぐことを目的として事業に取り組んでおりました。しかしながら、福岡県と福岡県社協の協議の結果、令和7年度をもちまして各地区バンクに対する業務委託の廃止が決定しました。

4. 法人運営関連事業

(1) 筑穂保健福祉総合センター

飯塚市との協定書に基づき、住民の健康増進と福祉の拠点として管理運営を行いました。

- ・健康運動室年間延べ利用者数 6,419人 (6年度: 6,437人)
- ・会議室など年間延べ利用者数 4,193人 (6年度: 4,680人)

(2) 飯塚市福祉センター伊川の郷

令和6年度末をもって閉館した当センターにおいては、福祉センターとしての機能を果たさなくなったため、減免されていた固定資産税や市有地賃借料などの運営費が発生することになるので、総務委員会や理事会を経て、行政とも協議の結果、令和7年中には解体撤去工事に着手することが必要となり、市所管課とも協議を重ね、無事に当年中の入札、契約を経て解体工事へ着手することができ、基本財産処分として行うことができました。

(3) 収益事業

自主財源の確保策として以下の収益事業に取り組みました。

- ① 飯塚オートレース場に自動販売機手数料収入・・・ 1,439,443円
- ② 社協だよりへの有料広告掲載料収入・・・・・・・・ 96,000円（4件）
- ③ 社協公用車への有料広告掲載料収入・・・・・・・・ 120,000円（2件：2台）

5. 会議、研修会

本会が開催した各種会議・研修会について報告します。

(1) 理事会（第102回～第107回）

回	開催日	議 題
102	令和7年4月1日 (書面表決)	【協議事項】 1 処務規程の一部変更について
103	令和7年6月9日	【報告事項】 1 会長及び常務理事の職務執行報告について 【協議事項】 1 令和6年度事業報告及び資金収支決算報告について 2 令和7年度第1次資金収支補正予算について 3 役員（理事・監事）候補者の推薦について 4 評議員選任候補者の推薦について 5 苦情解決第三者委員の選任について 6 評議員選任・解任委員会委員の選任について 7 第64回評議員会の招集について 8 第15回評議員選任・解任委員会の招集について
104	令和7年6月25日	【報告事項】 1 飯塚市福祉センター伊川の郷について 2 社会福祉協議会の経営（財務）の状況と課題について 【協議事項】 1 会長の選定について 2 副会長の選定について 3 各委員会委員の選任について
105	令和7年11月5日	【報告事項】 1 令和7年度第1回地域福祉委員会委員長報告について 2 令和7年度第1回総務委員会委員長報告について 3 令和7年度第1回介護福祉委員会委員長報告について 4 准職員（2種）就業規則の一部変更について 【協議事項】 1 基本財産建物(飯塚市福祉センター伊川の郷)の処分について 2 基本財産建物(飯塚市福祉センター伊川の郷)の処分方法について 3 基本財産建物(飯塚市福祉センター伊川の郷)の処分に係る契約について 4 令和7年度第2次資金収支補正予算について 5 職員給与規程の一部変更について 6 第65回評議員会の招集について
106	令和7年11月28日 (書面表決)	【協議事項】 1 基本財産建物（飯塚市福祉センター伊川の郷）の解体工事契約について

107	令和8年3月6日	【報告事項】 1 会長の職務執行報告について 2 令和7年度第2回総務委員会委員長報告について 3 令和7年度第2回地域福祉委員会委員長報告について 4 令和7年度第2回介護福祉委員会委員長報告について 5 飯塚市福祉センター伊川の郷について 【協議事項】 1 令和7年度第3次資金収支補正予算について 2 令和8年度事業計画及び資金収支予算について 3 職員給与規程の一部変更について 4 処務規程の一部変更について 5 定款の一部変更について 6 特別養護老人ホーム筑穂桜の園施設長の選任について 7 理事候補者の推薦について 8 評議員選任候補者の推薦について 9 福岡県介護福祉士修学資金貸付に伴う連帯保証人について 10 筑穂支所における給食業務の委託契約について 11 第66回評議員会の招集について 12 第16回評議員選任・解任委員会の招集について
-----	----------	--

(2) 評議員会（第64回～第66回）

回	開催日	議 題
64	令和7年6月25日	【協議事項】 1 令和6年度事業報告及び資金収支決算報告について 2 令和7年度第1次資金収支補正予算について 3 役員（理事・監事）候補者の選任について
65	令和7年11月13日	【協議事項】 1 基本財産建物（飯塚市福祉センター伊川の郷）の処分について 2 基本財産建物（飯塚市福祉センター伊川の郷）の処分方法について 3 令和7年度第2次資金収支補正予算について
66	令和8年3月19日	【協議事項】 1 令和7年度第3次資金収支補正予算について 2 令和8年度事業計画及び資金収支予算について 3 定款の一部変更について 4 理事の選任について

(3) 評議員選任・解任委員会（第15回～第16回）

回	開催日	議題
15	令和7年6月25日	【協議事項】 1 委員長の選任について 2 評議員の選任について
16	令和8年3月6日	【協議事項】 1 評議員の選任について

(4) 総務委員会

回	開催日	議 題
1	令和7年8月20日	【協議事項】 1 副委員長の選任について 2 飯塚市福祉センター伊川の郷について 3 社会福祉協議会の経営（財務）状況と課題について

2	令和8年2月4日	【協議事項】 1 職員給与規程の一部変更について 2 処務規程の一部変更について 3 定款の一部変更について
---	----------	--

(5) 介護福祉委員会

回	開催日	議 題
1	令和7年9月26日	【報告事項】 1 介護保険等事業の実施状況（4月～7月）について 2 福祉・介護職員等処遇改善加算の1本化について 【協議事項】 1 外国人材（留学生）の雇用について
2	令和8年2月10日	【報告事項】 1 介護保険等事業の実施状況（4月～11月）について 2 福祉・介護職員等処遇改善加算の1本化について 3 外国人材（留学生）雇用の進捗状況について 【協議事項】 1 令和8年度事業計画（案）について

(6) 地域福祉委員会

回	開催日	議 題
1	令和7年7月28日	【委員会運営】 ・委員長選出 ・副委員長の指名 【報告事項】 地域福祉活動の進捗状況 ① こどもの居場所づくり推進事業（基金）について ② 共同募金配分金事業について ③ 重層的支援体制整備事業の取り組みについて
2	令和8年2月5日	【協議事項】 1 令和8年度飯塚市社会福祉協議会事業計画（案）について 2 令和8年度共同募金配分金事業地区（校区）社協事業助成について（見直し） 3 令和8年度福祉団体助成金の交付について 4 こどもの居場所づくり推進基金助成事業について

(7) コミュニティワーカー会議・生活支援コーディネーター連絡会：年11回開催

(8) 介護保険等管理者会議：年10回開催

(9) 人権・同和研修会

全職員対象に年1回以上の参加義務を課しました。

（市内で開催される各種人権研修への参加又は、事業所で開催する人権研修への参加）

(10) 安全運転講習会

全職員対象に年1回の参加義務として実施しました。（事業所ごとなどで少人数にて分散開催又は個人での研修動画の視聴）

また、各事業所の安全運転管理者においては、福岡県公安委員会が開催する安全運転管理者講習会への参加もしております。